

実践記録

147

シリーズ

「ママも子どもも笑ったら、山の爺婆が元気になった」

多世代交流館になニーナ 代表 佐竹 直子

●事業の取り組み

子育て・子育ての豊かさを、多世代・多文化・多業種がゆるやかに交流することで、震災からの心の復興にも繋げていきました。

●事業のポイント

一人ひとりが生きがいを持てるようなきっかけを作り、世代や文化、分野を超えて交流することにより、個々の生活がより豊かに、元気になっていく社会創りのお手伝いをしています。子育て世代のママたちがワークシェアを模索する、社会参画の場としても活動を展開しています。

●活動紹介

①毎月1～3回の開催の子育てサロンや手仕事カフェ、健康お茶会など、誰でも参加できる交流サロンの開催や居場所の提供をしています。



②山菜料理交流サロンや、秋の味覚交流サロン、餅つき、煮菜の日など、郷土料理を通じた文化伝承や人材・文化再発見による緩やかな多世代多文化多業種多地域団体間交流を実施しています。



③毎月27日に開催している手作り市の「にな市」では、手仕事カフェの成果の場であったり、起業の一步となっている他、年代・分野関係なく交流できる場としてにぎわっています。

④学生や福祉作業所・特別支援学級、県内外からの

視察やボランティアの受入もしています。

●活動上の悩み

利用者の方や、ネットワークのある各種団体さんなどから、外からの要請、相談が多くなってきています。しかし、子育て中でボランティアな活動をしている身にとっては、人手不足と慢性的な資金不足がついて回っています。

●地域への周知・啓発の方法

利用者による「口コミ」や毎月発行している「イベントカレンダー」、HP、会報、チラシ、掲示板への書き込み、市報、新聞など。

●連携している相手先は？

震災被害にあった、中越地区の中山間地、福祉作業所、各種学校、行政各課、震災復興支援団体、企業などと、ご一緒させていただいています。

●ボランティアの確保は？

「コミュニティーワーカー養成講座」やスタッフ研修など、広くコミュニケーションや専門性を学べるよう、独自の人材育成講座などを実施しています。利用者の中から、興味のあるような人に声をかけて担い手が増えるようにしています。

●地域のネットワークは？

こちらから地域に出向いていたり、ボランティアとして地元の学生に声をかけたり、自主事業以外にも他団体・行政・企業と企画運営の協力をするなどで交流を広く図るよう努めています。

年間約1万人の利用者さんと、約30名のスタッフが育ちあっています。企画の持込や逆指名されることも増え、そのネットワークと活動が評価されています。平成21年に、新潟県の自治活動賞を受賞しました。

●課題とこれからの方向性は？

NPOとして法人格を取得し、新たな拠点と、長岡市との新規事業の受託など、内部の体制と活動を再構築し、枠にとらわれない社会参画を目指していきます。

多世代交流館になニーナ

〒940-0082 長岡市千歳1-23-6

TEL/FAX 0258 (32) 0889